

インドゾウ展示場改修工事とその間の飼育管理の報告

○船藤 史¹⁾, 佐藤 英雄¹⁾, 飯野 雄治²⁾, 小川 直子¹⁾, 古田 洋¹⁾, 矢口 茜¹⁾, 岡崎 孝樹¹⁾
(¹⁾よこはま動物園, ²⁾野毛山動物園)

よこはま動物園では、1999年の開園当初からインドゾウ(*Elephas maximus indicus*)を展示しているが、展示場に不備や問題が生じていた。2つの展示場間にあるモートは、ゾウが転落する恐れがある上、転落した場合に救出が困難となる構造であった。また、既存の脱柵防止柵は高さ180cmで雄個体の頭部が乗り出してしまうほど低く、一部を曲げられてしまっていた。そこで、飼育担当者とゾウの双方にとってより安全な環境にするため、2021年2月1日から4月28日の約3ヶ月間で展示場改修工事を行った。主な工事内容として、まず展示場間にあるモートを埋めた。また、脱柵防止柵は高さ250cmの丸鋼を用い、子ゾウが生まれた際に脱柵しないよう45cm間隔で新設した。その他にのり面の土留めの改修とセットバックによる観覧通路との距離の拡張、電柵や樹木保護柵の改修などを行った。

工事期間中は室内で過ごすゾウに対し、運動不足による体重増加や、四肢の状態の悪化を防止するため、利用できる空間を拡げて同居を行った。また、新たな給餌器と遊具の設置やお湯浴びなどを行った。

工事後の展示場では、ゾウは問題なく過ごしている。工事前後で、体重やボディコンディションスコア(BCS)の大きな変化や四肢の状態の悪化は見られなかった。今後も、ゾウの健康や福祉を考慮しながら、より安全な環境や飼育方法を検討していく。